

……これは、罰なのでしでしょうか？

主よ、どうか教えてください



私の名はミーナ

この修道院でシスターとして神に仕えながら暮らしています



生まれ落ちてすぐ、この修道院に預けられて暮らしていた為、

両親の顔も名も知りません

何故、両親が赤ん坊の私を修道院に預けたのか

それは恐らく私が、女性でありながら男性の性器を持つ、

ふたなりとして生を受けたからでしょう



このことを知るのは、修道院の院長と私だけ

ふたなりであることを差別せず、平等に接し



ここまで育ててくれた院長には感謝しかありません

当初抱いていた不安や恐怖も、今ではその影もありません

主によってもたらされた巡り合わせによって私は生きています

しかし、それでもなお疑問に思わずにはいられないのです

何故、私はふたなりとして生を受けたのか……





私の身の、不浄なるモノについて……

——今日も、お答えしては頂けないのですね

.....ミーナさん？ミーナさんー？

静粛に、神の御前ですよ

バタ
バタ

わっ、ととっ………すいません、ミーナさん

いいのですよルウ



それで、私に何か用事ですか？

あ、はい！

実は来週の式典に使う木の実が足りなくなっって……

ああ、確かに数が減っていましたね



分かりました

午後に私が森に採りに行ってきましょう

教えてくれてありがとうございます、ルウ

?

……あの、そのことなんですけど



私もミーナさんに同行しちゃダメですか!?

まだまだ未熟なのは分かっています

でも、ミーナさんの助けになりたくて……

……気持ちは嬉しいです、ルウ



でも、森には危険な魔物が出る可能性もあるので

だから、もう少し大人になるまで、ね？

……ううー！私だって、もう大人です！

木の実を採りに行くぐらい、私にだって……



森だって最近は平和じゃないですか

それでも、少しでも貴方に危険が及ぶ可能性があったら

それを許すわけにはいかないのですよ

だから、ごめんなさいね？ ルウ



ミーナさんは意地悪です……

ふふ、それじゃルウには式典用の道具の手入れをお願いしていいでしょうか？

大事な仕事、ルウになら任せられます

……！
勿論です！私に任せてください
ミーナさん！





じゃあ、私、早速取り掛かりますね！

ミーナさんも、木のみ集めお気をつけて！

ふふ、相変わらず元気な娘……

ああ、私は何を悩んでいたのでしょうか

己の身がふたなりであることなど、些末なこと

私はここで、院長やルウ、そして主の愛を受けて暮らしている

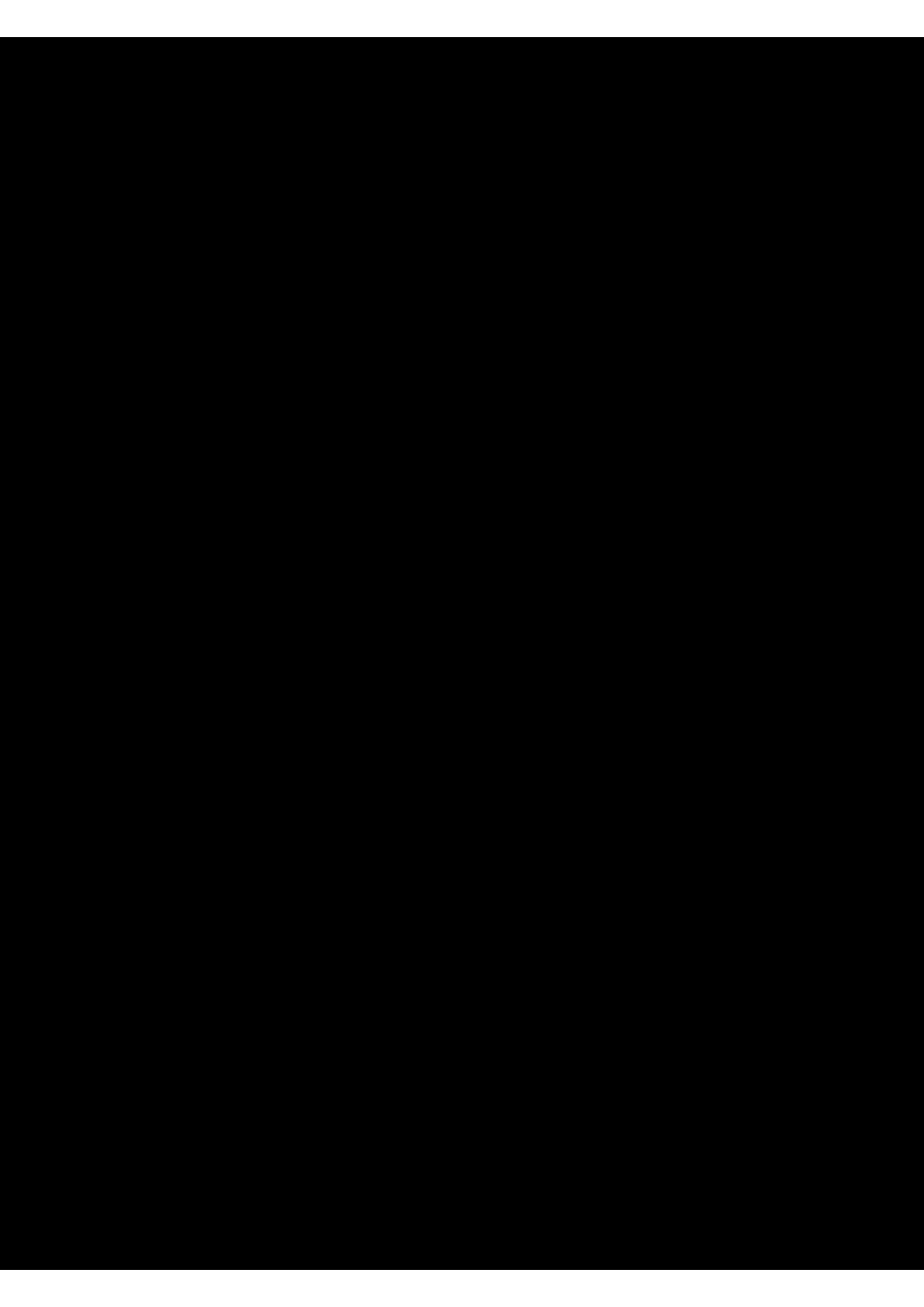
それでいいではありませんか





ああ、願わくばこんな毎日が

ずっと続きますように――





まさか、森のこんな場所にまで、

魔物が出てきているだなんて……!!

ふっ……!ぐう……っ!

グググ……

くっ、触手が手足に、絡み、ついて……ッ!

んっ

四肢の自由が、効かない……!

……これでは、もう逃げられない





私は、きつとこの魔物に食べられてしまうのでしようね……

ああ、でもよかった、ルウがこの場にいらなくて……

あの娘がここにいたら、私は自分を許せなかったでしょう……

主よ、どうか私の声が聞こえているのなら……

ルウヤ、修道院の皆が平穩に暮らすことが出来ますように……

キッ

……さあ、これで覚悟は出来ました

私を食べるのなら、さっさと食べなさい！

……って!?

何をしようとしてるのですか!?

や、やめなさい!

そこは、私の、その、おちんちん、ですよ……っ!?

てり〜

エ〜

エ〜



その、触手は一体なんですか……!?!?

まるで、おちんちんを丸呑みするために
作られたかのような、卑猥な、形状……!!

シスターとして清廉潔白、

いかなる不浄も払い、私は純潔を貫いてきたのです!

どろお……

びゅ

びゅ

ドキ

ハッ

ハッ

ドキ

快樂の萌芽すら、未だ知らぬ、私の、おちんちんを……!!

そのような、淫らな、モノで、辱めるなど……!!

絶対に、あつては、ならな

あゝん

ビク
ビク





ぐっぽおっ♡♡♡♡ぐちゅう♡

あああああっ!?!♡♡♡♡♡

かぶっ

ぽっ

あっ

びっ



おほっ♡

な、なん、ですかっ♡これはあっ♡



ごん、にやっ♡きもちっ♡

これっ♡がつあっ♡かい、らくう♡♡♡♡♡

おち、おちんちんっ♡があっ♡

よかつた、なんてっ♡へえっ♡

フー♡

フー♡

ドキ♡

ドキ♡

んっ♡
んっ♡

自分で、弄ったことすら、ないっ♡

敏感おちんちん、なのにいっ♡

触手にっ♡丸呑みされてえ♡

凌辱されちやつてるうっ♡♡♡



はあっ♡やあっ♡らめえっ♡

おちんちん、ぐちゅぐちゅ、だめっ♡

ぬふぬふっ♡シヨシヨっ♡し、ちやつ♡

ビッ
フー
フー

ゴキッ
ゴキッ
ゴキッ

我慢、できなく、なつて……ええっ♡

なにか、くるっ♡キ、ちやつ♡♡♡



はあ……♡はあ♡

これが、射精っ♡これが、快樂……っ♡

こんな、悦びが、この世にあつた、なんて……♡

なんて罪深き行い、なのでしょ……♡





その後、魔物は何度も何度もおちんちんを弄り尽くし、

私の精を貪りました……

十分に精を吸って満足したのか、

魔物は私を解放するとどこかへ消えていきました……

息も絶え絶えに、疲れ切った私が修道院へ帰ったのは、

もう日も暮れようという頃……

ミーナさん!?!?

ああ、ルウ……

す、少し、帰りが遅くなりましたね……



どこか悪いのですか？

顔色が、それに衣服もこんなに汚れて……

も、森で少し、その、転んでしまいました……

そんな！大丈夫ですか！？



とにかく、怪我の確認と治療をしなきゃ……

……ッ！触らないで！

グッ！

ビュッ♡

ビュッ

ミーナ、さん……？

……大丈夫、大丈夫ですから、ね？



久々に森に入って疲れただけですから……

……少し、休みます

ドキ♡

ドキ♡

心配かけてすみませんね、ルウ

は、はい、ご無事なら、私はそれで……



はあ……♡ はあ♡

ガクガク

なんという、こと……!!

ドキ

ハー♡

+

ハー♡

ドキ

今、私はルウに、劣情を抱いたのですか……?♡

本気で、私は……っ!



私を姉の様に慕ってくださっている、ルウを……!!

自らの、おちんちんでっ♡

フー♡

フー♡

ぐちゃぐちゃにっ♡

犯して、しまいたい、と♡

びんぽ

びんぽ

あのままでは、恐らく、無理矢理にでも押さえつけて……っ♡

ああっ！なんとということでしょう！



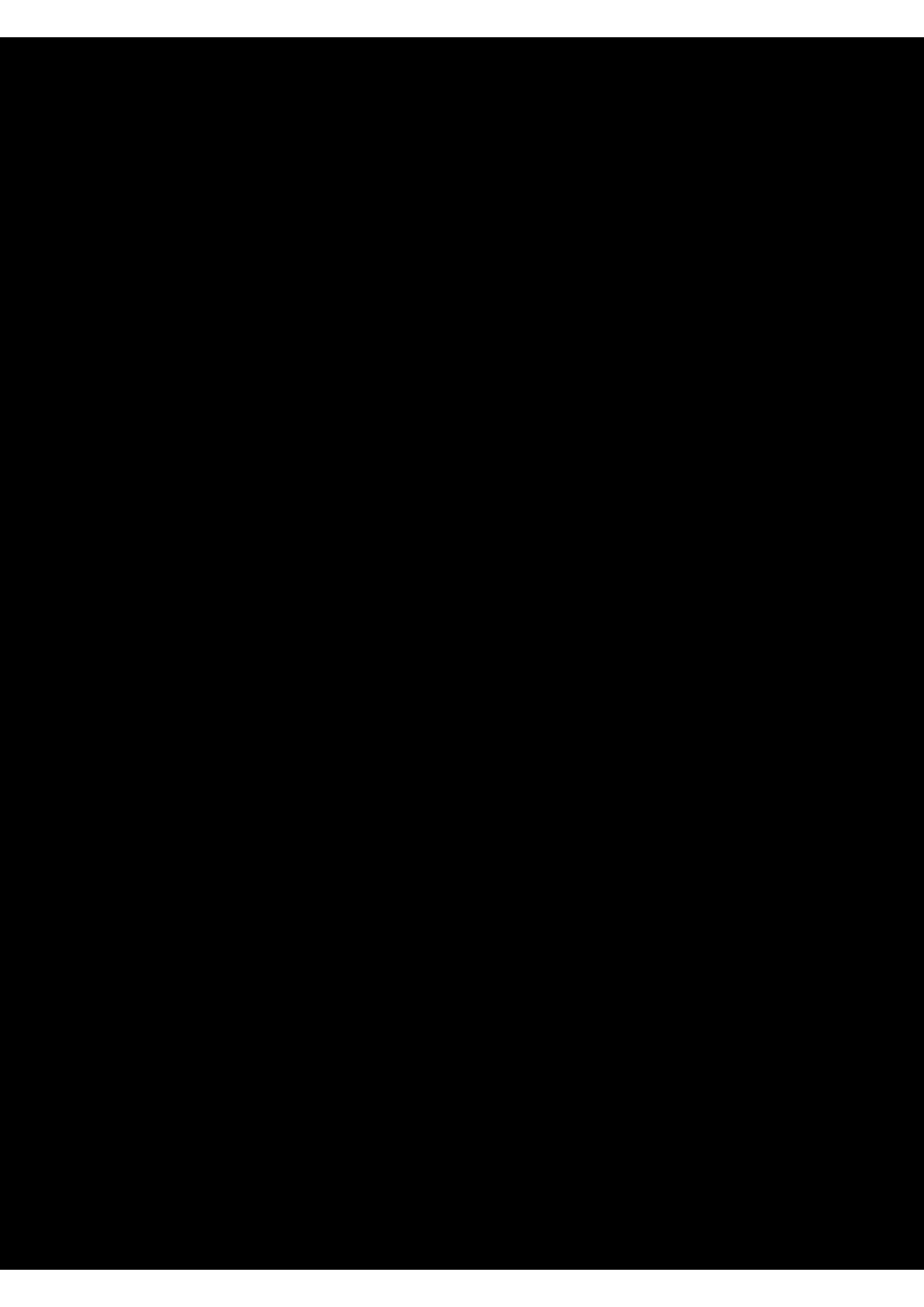
魔物に襲われ、その邪気にあてられて

自らもケダモノに成り果ててしまったただなんて！

と、とにかく、この邪念を払う為にも、

一度、欲望を吐き出してしまわねば……





さつき、魔物に搾られたばかり、なのにつ♡

また、こんな、大きくなっているだなんてっ♡

びん♡

びん♡



はあっ♡はあ♡

指の中で、びくんびくんっ♡って♡

暴れて、るうっ♡私の中の、邪念がっ♡

ドキ♡

ハア♡

ハア♡

ドキ♡

グッ♡

グッ♡

ぐゅ♡

ぐゅ♡

びゆるびゆるっ♡溢れたがっ♡

主よ、これは、罰なのでしょようか♡

魔物とまぐわい、邪念に塗れてしまった私への♡

いや、罰だったら、こんな気持ちいい筈無いですよねっ♡

あはっ♡

はっ♡
はっ♡

びんっ

びんっ

ぐっ♡
ぐっ♡
ぐっ♡
ぐっ♡

だから、これは、きつと良いことおっ♡

こんな、モノを私は今までっ♡

股間に、ぶら下げているのですねっ♡

こんな、きもち、いいものをおっ♡

んんん♡
んんん♡
んんん♡

はあっ♡おちんちん、きもち、よすぎてえっ♡♡♡

んんん♡

んんん♡
んんん♡
んんん♡

んんん♡





また、びゆるびゆるっ♡でちやああっ♡

びゅん♡
びゅん♡
びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡
びゅん♡

おっ♡

おっ♡

あああああっ♡♡♡

あつ♡はあつ♡……はー♡

これは、しかたのない、こと……♡

ルウを、皆を、襲うわけには……♡

だから、こうして、吐き出さないと……っ♡



それから私は、毎日、精を吐き出すようになりました

朝、目が覚めた時、昼食の後、午後の礼拝が済んだ後

そして、夜に至るまでの一日中……

おちんちんが大きくなってしまった時は、必ず

人目を離れ、行為に及びました



そして、今日もまた……

ルウ……っ♡ルウっ♡

しゅ♡
しゅ♡

んん♡
んん♡



あぁっ♡人目が無いとはいえ、自室の外でっ♡

ドキ♡

♡♡

フフッ♡

ドキ♡

がらんっ

ゲ♡
ゲ♡

しっ♡

しっ♡

くちゅ♡

くちゅ♡

このような、行為に及んでしまうだなんてっ♡

私は、なんと罪深い存在なのでしょうっ♡



ルウのことを考えながらっ♡

おちんちんを弄るのが、こんな気持ちがいいだなんてっ♡

はぁ♡シヨシヨきもちいい♡

ルウでシヨシヨきもちいいっ♡



はあっ♡ルウのおまんこっ♡

ルウのおまんこにらっ♡

あはあ♡

おちんちん、直接ぐちゅぐちゅできたらっ♡

どんなにっ、気持ちいいことでしょう♡



でも、ダメっ♡それだけはっ♡

しちやダメ、なのですっ♡

だからっ、こうしてっ♡

ルウシヨでえっ♡が、まん、してえっ♡♡♡





あつはあつ♡

がまん、できなつ♡
ああつ♡♡♡

ぶるん
ぶるん
ぶるん♡

ぶるん

あつ♡
あつ♡
あつ♡

はあっ♡ダメっ♡

んキ♡
ぜんぜん、おさまらなっ♡

んキ♡

ハっ♡

ハっ♡

ルウっ♡ルウ♡おちんちん、入れたいよっ♡

おまんこ、私のおちんちんで、ぐちゃぐちゃにしたいよおっ♡

んキ♡

んキ♡

んキ♡

んキ♡

んキ♡

んキ♡



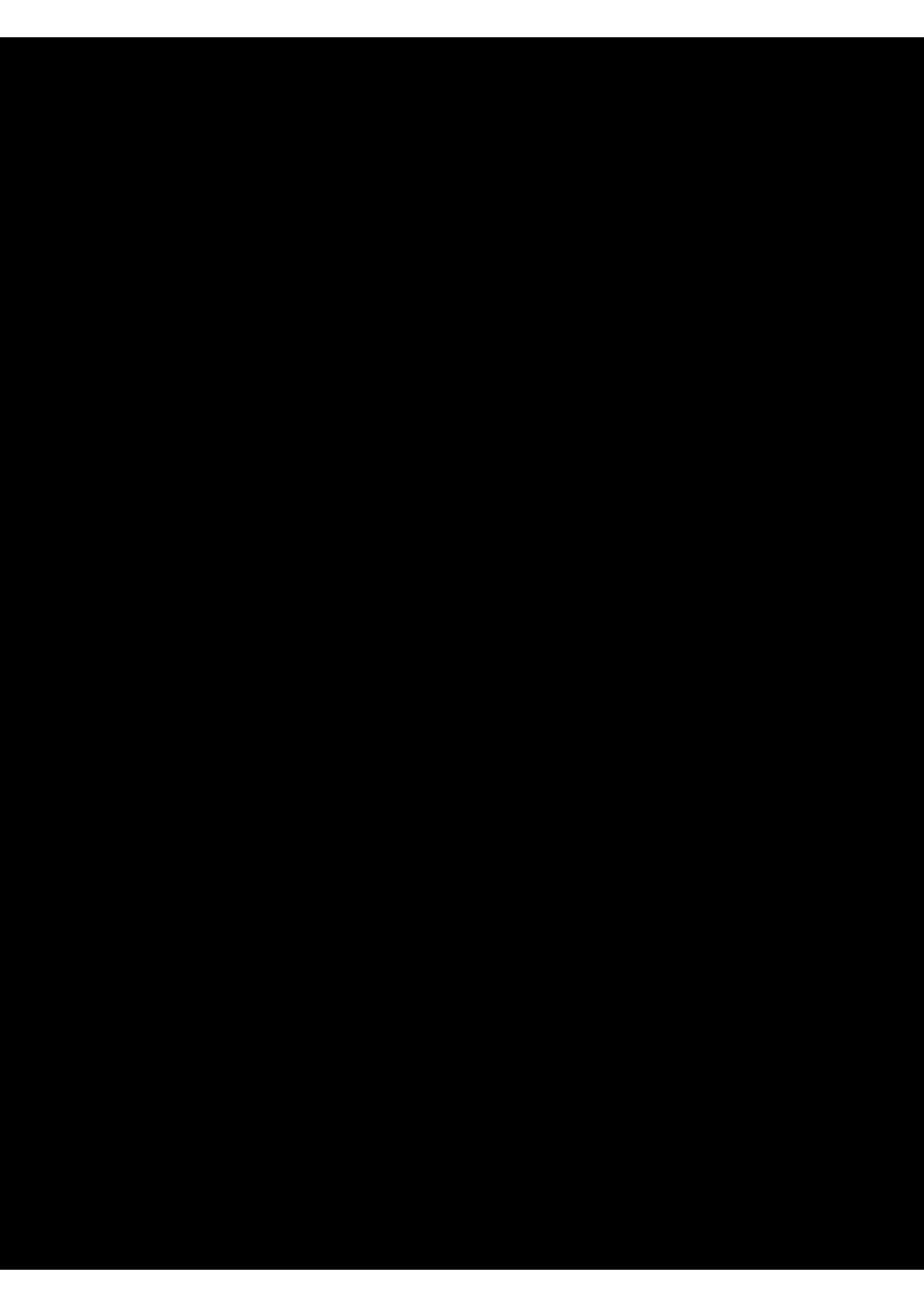
今、この場にルウが来たら、私、絶対我慢出来な……

ミーナ、さん……？

その、身体、は、一体……？

ツ♡♡♡





や、めってっ、くださ……っ！

ミーナ、さん……どう、して……！

ごめんねルウ♡

もう、我慢の、限界なんですっ♡

ぐんぐん

ふん……

男性のモノが、なぜ、ミーナさんに……

ふふ、生まれつき私はふたなりだったんですよ♡

主によって、おちんちんを与えられたのです♡

そう、これは主の意思なのです♡

ドキ♡

ん♡

ドキ♡

ぽん♡

ぽん♡

ぽん♡

ぽん♡

ようやく気づくことが出来ました♡

私がルウに欲情していることも♡

ルウのおまんこに、おちんちんをぶち込みたいと思うことも♡

フー♡
フー♡

ぽん♡

ずぼん♡

ぽん♡

ずぼん♡

ミーナ、さん………？

全ては主の意思だったのですね♡

ですから、恐れることはありません♡

主に従い、おちんちんを受け入れるのです♡

はあっ……!! な、にを……っ!

はっ♡
はっ♡

とっても気持ちいい締め付けですっ♡

ああっ♡いいですよルウ♡

ビクッ♡

ビクッ♡

パッ♡

パッ♡

パッ♡

パッ♡

ルウがあまりにキツく締めるものだから♡

おちんちんが、もう、限界ですよっ♡

ひっ……!!びく、びくって、脈打って……!!

ほっ♡
おっ♡

ハっ♡
ハっ♡
びっ♡

ああ♡出ますっ♡出ますよっ♡ルウ♡

びっ♡

びっ♡
びっ♡

びっ♡
びっ♡

びっ♡
びっ♡

びっ♡
びっ♡

どうです♡気持ちよかったでしょう♡

そんな、ことっ……!!

こんな、くるしい、だけで……

どうしました? ルウ♡

ガッ♡

どぶっ
どぶっ
どぶっ♡

ッ♡

ドキ♡

ドキ♡

ガッ♡

これは罰ではないのですから、素直に楽しんで良いのですよ♡

ミーナさん、元に、戻って、くださ……

……混乱しているようですね

大丈夫、私も初めはそうでした

え………？

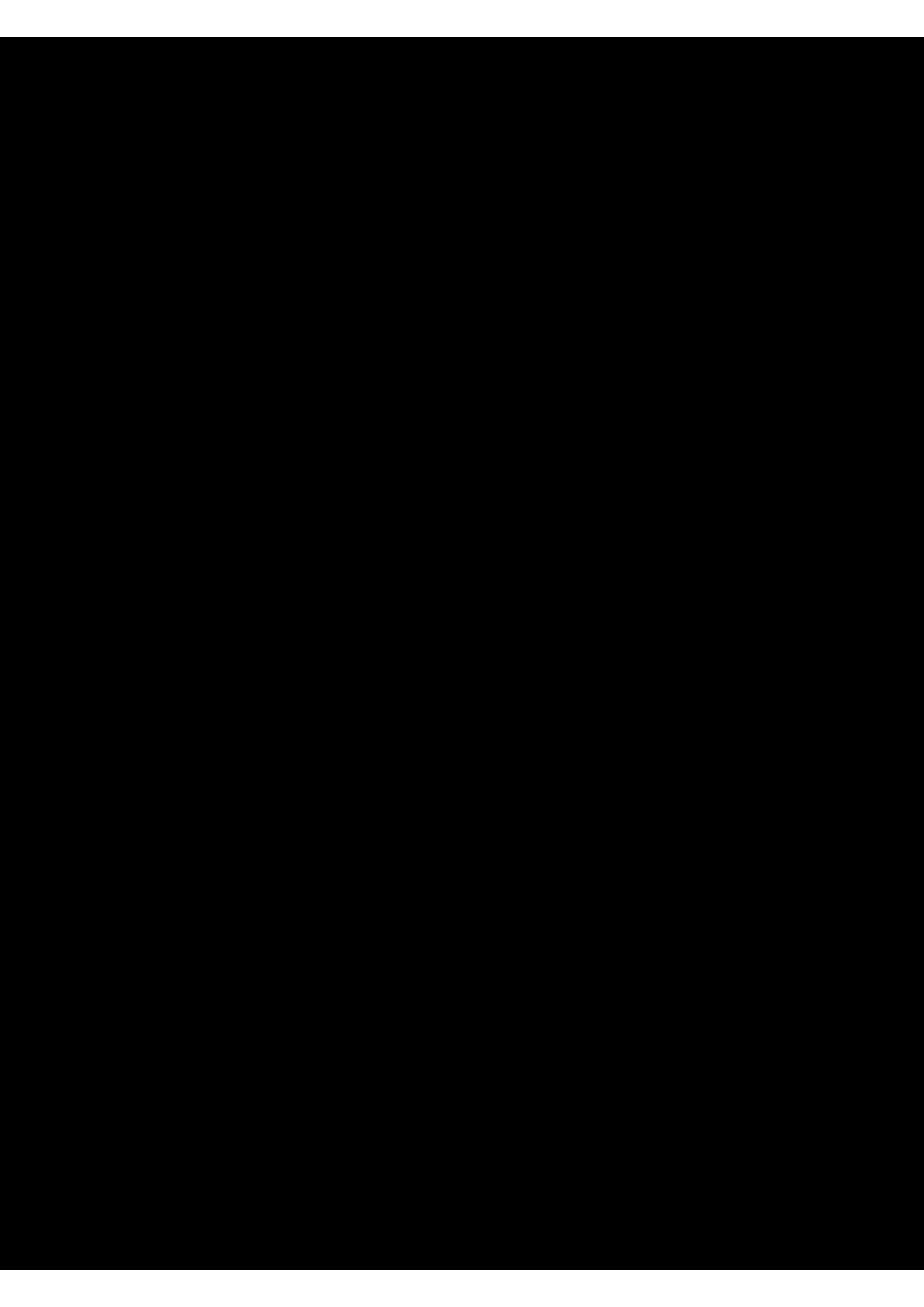
数をこなしていくうちに、慣れていきますよ♡

さあ、私の自室に場所を移して、更に深く愛し会いましょう♡

や、ああ……っ!? そん、な……

ふふ、私達2人で、新たな教義を紡ぐのです♡





あつ♡があつ♡や、めつ♡えつ♡

ホッ
スッ

どうっ♡ですかっ♡

ルウも理解っ♡できてきましたかっ♡

からだっ♡びりびり、してえっ♡

なに、これえっ♡しらないいっ♡

ふふ♡わかってきたようですねルウ♡

これこそがっ♡性の悦びですっ♡



全ては主の、おちんちんの意思のままに♡

ルウとこうしてぐちゃぐちゃに、深く混じり合うことも♡

全ては決まっていたことなのですっ♡



だからっ♡安心して、二人で堕ちましょう♡

深い快樂の底にっ♡帰ってこれなくなる程に♡

ばん♡

ばん♡

ばん♡

ばん♡
ばん♡
ばん♡

ばん♡

ばん♡

ばん♡

ケダモノになって、永遠に愛し会いましょう♡♡♡♡♡

あ、ああっ♡ミリーナ、さあん……っ♡



ああ、主よ、感謝します♡

このような身体で生を受けさせてくれたことを♡

おっ……

あっ……

主の御心、そして、私の役割……

ぐんっ

ぐんっ

ぐんっ

ぐんっ

今、全てを理解しました♡

今日より私は、愛の伝道師

ふたなりシスターミーナとして♡

世に、主の教えを説いていこうと思います♡

fin